

2018年1月9日、その日のことは、今でも覚えています。手汗が止まらなく足も震えながら、空港で他の研修生達の到着を待ち遠しく、楽しみにしていた僕がいました。しかしその一方、不安もありました。「友達は出来るのか、うまくいくのか」はもちろん、“日系社会次世代育成研修”というプログラムに参加しながら、自分が日系人である事に対する認識が薄かった自分への疑問をいただいていた。

自分を含め、南米から37名の研修生が参加し、一ヶ月間横浜で生活しました。初日は皆、緊張していてあまり話すことはありませんでした。しかしそれも次の日になれば、少しずつ打ち解け始め、会話をするようになり一気に楽しくなりました。中には静かな子もいれば、気が強く元気な子もいました。



それぞれ違う国から来ていて、文化はもちろん価値観が異なる事もありました。そんな中でも自己主張が激しい性格を持っていた僕は、あまり相手の意見を、と言うよりは自分の考えを最優先に考えていました。しかし今後、このグループで活動していく上で、今の性格では上手くやっていけないと言う事に気づきました。そう気づかせてくれたのは、とあるグループ活動の時でした。一度班ごとに分けられ、その中で一人一人の役目を決める時のことでした。僕はブラジルを出た時から絶対班長をしたいと言う想いでした。ただ一度グループの仲間と座ってみると、あえてあまり日本語を話さない、静かな子に「班長を任せてみたらどうだろう!」と言う事に気づき、意見を出しました。これぞまさしくこの研修の醍醐味なのではないかと思いました。

また神戸での移住学習では、僕達のルーツ、南米に移住して来られた曾祖父や祖父が当時、出航前に滞在していた、国立移民収容所での生活や習慣などについて学び、どんな想い、そしてどれだけの苦勞をされて来たのかを肌で感じるような貴重な体験ができました。

とにかく毎日の生活の中で日本の魅力をじわじわと感じていました。そんな時、待ちに待った、ホームステイの時がやって来ました。そこでは現地の家族と交流し、食事やお出かけ、温泉にも連れて行ってもらったりして、まさにその家族の一員かのような体験ができました。現地の日本人の生活を体験したところで、今度は僕達の母国での生活や食事、習慣など、母国の魅力を教えたりしました。そんな会話をする機会も数少ないのでとても良い経験となりました。

体験入学もしました。初日はとても寒く雪が積もっていました。バスに乗って移動するも、学校につく頃には足がビショビショだったことを覚えています。そして学校に上がるときは、初めての履き廊下を歩いた時ドアが皆横開きだったのを見て感動した事を覚えています。

「日系人の定義とは」。僕はいつも根本的に具体的に、と答えを探し求めてきました。とにかく目で見得のできる答えを求めていました。そしてそんな中、研修が進行すると同時に、色んな経験ができ、様々な人と触れ合う機会があり、自分の考えを改める事が出来た。ずばり「日系人」と言う言葉には固定された意味がなく、自分がどのようにその事を受け入れられるのかにあると思います。この研修を通して自分のアイデンティティーを理解できることが出来ました。両国の文化を理解でき、その架け橋になりたいと思っています。次世代にもこのような経験をして欲しいので、日本文化や語学の大切さを是非とも理解して頂きたいです。この一ヶ月間は今までで一番濃く、自分が成長した期間だと思います。

最後にこの研修を可能にしてくださった皆様と、一つ一つの出会いに改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

